

# いしかわの遺跡

No.  
48  
2015.3.18

## ホール展示

(平成26年度第3回ホール展「北陸新幹線発掘物語」)



展示風景

県埋蔵文化財センターの本館ホールでは年3回、近年の発掘調査遺跡の出土品などを展示しています。

北陸新幹線金沢開業に先立ち、(公財)石川県埋蔵文化財センターは平成19年度から24年度にかけて、金沢・白山総合車両所間の埋蔵文化財の発掘調査を行いました。総面積は93,120㎡に及びます。今回のホール展では白山総合車両所建設に関連した調査の中から7遺跡を紹介しています。これらは、手取川扇状地の島状地形(微高地)上に立地する弥生時代から近世の集落跡です。

[展示期間：平成27年1月31日～5月10日、無料]



導入部展示パネル

公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail ● mail@ishikawa-maibun.or.jp ホームページ ● http://www.ishikawa-maibun.or.jp/



きたよしだ いせき し かまち  
北吉田ノシロタ遺跡 (志賀町)



調査区全景 (上面・南から)



根がらみ柱穴 (第1面)



掘立柱建物 (第2面・南から)



同上柱穴 (第2面)

北吉田ノシロタ遺跡は、羽咋郡志賀町北吉田地内に所在する弥生時代～中世の集落跡で、米町川の両岸に広がっています。平成26年度の調査は、米町川の改修工事に先立ち、同河川の左岸区域を対象に前年度から始めた発掘調査の第2次調査になります。先の調査では弥生時代後期～古墳時代前期を中心とする1つの遺構面を調査しましたが、今回の調査では、第1次調査では見られなかった下層面が新たに確認されました。これにより今回の調査では、弥生時代の終わり頃から古墳時代前期頃を中心とする上層面と、弥生時代後期に遡る遺構が見つかった下層面の、2つの遺構面を調査することになりました。

上層面では、第1次調査区と接する南西側の区域を中心に、掘立柱建物の小柱穴を多数検出しました。標高約2mの地盤の軟らかい低地に営まれた集落であったことから、柱穴の多くには柱の下に沈下防止のための礎板が敷いてありました。このほかにも、建物の規模や数については不明ですが、川寄りの区域で直径約1mの大きな柱穴を複数確認しています。これら柱穴からは柱は見つかりませんでしたでしたが、柱の根元部分を「キ」の字状に固定した横木や、二股に加工した柱根と組み合わせたと見られる枕木などが確認されました。これらはそれぞれ柱のずれや沈下の防止を目的とする根がらみ材と考えられ、低地に暮らす人々の知恵や工夫の一例として注目されます。

下層面では、第1次調査でみられたものと同様の、長さが50cmを超える大きな礎板を敷いた柱穴の建物が1棟見つかりました。このような礎板を伴う建物は一般的な住居ではなく、柱に大きな荷重が掛かる倉庫のような建物と推定されます。また北東側の区域では、当時の川跡を確認しました。その川岸部分からは、捨てられたとみられる大量の土器が出土しました。

H26  
発掘調査ふつかいち いせきの ののいちし はくさんし  
二日市イシバチ遺跡〔野々市市・白山市〕

二日市イシバチ遺跡はJR野々市駅から約500m南西に位置します。平成26年度の発掘調査は二級河川高橋川の河川改修工事に伴う調査ですが、これまでも同事業を始め、野々市市北西部土地区画整理事業、北陸新幹線建設事業などにより広大な面積が調査されており、主に弥生時代後期後半～古墳時代初頭と中世の集落跡が確認されています。

本年度はJR北陸本線を挟んだ北側と南側で、合わせて3,620㎡の調査を行いました。南側の調査区では古墳時代初頭の掘立柱建物や土器捨て場などが見つかりました。この建物は掘り方が布掘りで、平行する2本の溝の中にそれぞれ4基ずつの柱穴

が掘られていました。他に小型の<sup>たてあなたてもの</sup>掘立柱建物も建てていたようです。また、中世の溝や掘立柱建物なども確認しています。

北側の調査区では、線路際で古墳時代の掘立柱建物や土坑が確認されましたが、北方に行くにつれて遺構密度が低くなる様子が見られました。線路辺りが古墳時代までの集落の北限域であったようです。一方で、中世の集落は北側にも続いていることが分かりました。東西方向の溝が約55mの距離を置いて2本併走しており、その内側で掘立柱建物や井戸などが検出されました。出土遺物は多くはありませんが、室町時代の集落跡と推定されます。



掘り方が布掘りの掘立柱建物（南西から）



土器捨て場（北から）



作業風景（北東から）



中世の掘立柱建物と土坑（東から）



## か も しやう す い せ き か が し 加茂ボケ生水ウラ遺跡 (加賀市)



遺跡遠景 (南から)

遺跡は加賀市南部の丘陵地帯から流れる動橋川と大聖寺川によって形成された沖積平野に立地し、加茂町の中央部を東西に横断する国道8号の南側にあります。発掘調査は一般県道片山津山代線のバイパス工事に伴うもので、平成26年度の調査地は南北方向に長さ235mほどあり、遺構は中央部を除き北側と南側で多く見られました。

北側では弥生時代終末期～古墳時代前期、古代、中世の集落を確認しました。弥生時代終末期～古墳時代前期は主に土坑や溝などを検出しました。古代は建物の柱穴とみられる小穴から須恵器杯、土師器甕、布目瓦が出土しました。中世は数棟の総柱建物と井戸または水溜とみられる遺構を検出しました。

南側では、南北方向や東西方向にしっかりと深く掘られた溝が数条見られました。溝の近くには、調査区域に隣接して殿様生水と呼ばれる湧水があり、近世の頃から利用されていたことが文献により分かっています。溝のいくつかは、この湧水に向けて延びています。溝の時期については、遺物が出土しなかったため確定できませんが、堆積土の観察等から近世以降のものと考えられます。

今後も、本遺跡の発掘調査が予定されており、これらの溝の性格や時期について判明することが期待されます。



古代の遺物出土状況



中世の総柱建物



溝と湧水 (右上の東屋)

## 環日本海文化交流史調査研究集会

平成26年10月24日(金)に「江戸時代の墓」をテーマとして、第15回環日本海文化交流史研究集会を当センターで開催しました。この研究集会は、平成12年度より毎年テーマを設定して行っている研究事業です。今回は、日本海沿岸各地域における江戸時代の墓地・墓域、埋葬施設、副葬品について、県内外の8名の講師の方々に報告いただき、その変遷や共通性・地域性を明らかにすることを目指しました。

九州地方からは、大分県の筑前秋月藩城下町に所在する4ヶ寺約700基の墓石の分析から見える、墓石の変遷や、例えば戒名のつけ方などの複合的要因をもつ階層性の発現に関する報告が行われました。山陰地方からは、両墓制(「埋め墓」・「詣り墓」という2つの墓地からなる墓制)を採用した地域における埋め墓での墓壙・埋葬形態の変遷や、因幡地域での土葬墓の卓越、また銭貨・刃物類・煙管を基本とする副葬品にみえる小地域性に関して報告が行われました。

福井県からは、越前地域で火葬墓が、若狭地域で両墓制(土葬墓)がそれぞれ卓越する状況と、その成立や背景の報告が行われました。本県からは、直江ボンノシロ遺跡などの農村部の墓地や、金沢城下町の寺院境内墓地における火葬墓と土葬墓の併存や変遷、また加賀八家横山家墓所の調査成果が報告されました。富山県からは、高岡市前田利長墓所などの大名墓や、立山信仰を支えた衆徒墓地、農村部の火葬墓・土葬墓の調査事例や特徴について報告が行われました。

新潟県からは、火葬墓と土葬墓が併存する状況と、その背景にある浄土真宗の分布や地下水位との関係、また、火葬蔵骨器の選択と拾骨方法についての報告が行われました。東北地方からは、大名墓の調査事例や、青森県東部域での土葬墓の偏在、火葬墓の確認事例の少なさと地域的な偏在に関する報告が行われました。

討論では、主に火葬墓と土葬墓の採用、埋葬施設、副葬品の選択から見える地域性や変遷、特質を整理しました。現在の火葬や「家」を基盤とした墓制とは異なる、身分や宗派、都市・農村、さらに

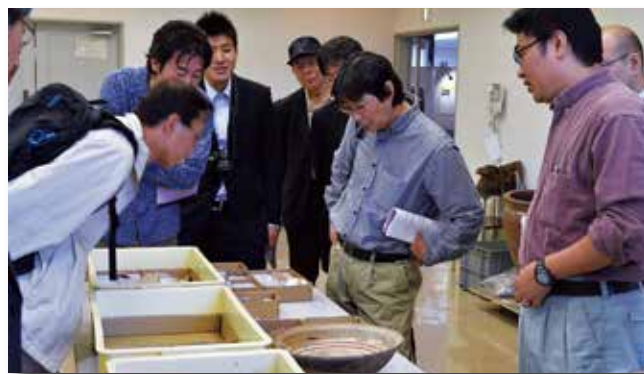
は各地域の民俗などが複雑に絡み合う多様な墓制が展開したことを確認し、今後の研究の基礎資料として大きな成果を得ました。この研究集会の記録は『石川県埋蔵文化財情報』第33号に掲載されます。翌日に行われた資料見学会では、金沢市木ノ新保遺跡、金沢城下町遺跡(東兼六町5番地区)から出土した副葬品や甕棺について意見交換を行った後、野田山墓地、金沢城下町遺跡(東兼六町5番地区)の現地見学を行いました。



地域別報告の様子



討論の様子



資料見学会の様子

情報  
発信

講座 考古学最前線 「縄文時代の食と手仕事 -今につながる植物利用-」

平成 26 年 12 月 6 日 (土)、石川県立美術館ホールを会場に、名古屋大学大学院の山本直人教授<sup>やまもと なおと</sup>を講師に迎え、最新の考古学研究についてわかりやすく解説していただきました。雪が降りしきる中、多くの参加者が熱心に耳を傾けていました。

縄文時代の歴史像を考古学や民俗学から探っている山本先生は、縄文時代の時期区分や環境などの話から始まり、トチやクズなどを食物としてどう利用したのかなど、新しい科学分析の方法や分析例、民俗例をあげながら幅広く紹介しました。また土器についての<sup>もみ</sup>跡を、レプリカ法によって明らかにし、縄文時代の終わり頃になるとイネを利用したことなども説明されました。植物から<sup>かご</sup>籠や布を作り出す技術<sup>うるし</sup>について、漆の利用方法も含めて紹介し、西日本では<sup>ひのき</sup>檜材・東日本では竹材をよく使っていたことを指摘しました。来場者からは、「現代につながる縄文の技術に歴史を感じた。」「最新の分析方法による新たな成果を知り参考になった。」といった感想が聞かれました。



まいぶん考古学談話会

発掘調査や考古学研究の成果をわかりやすく解説する冬期の講座で、本年度は2月1日(日)、22日(日)の午後、中国や九州の肥前<sup>ひぜん</sup>で製造された陶磁器などを手にしながら、講師の解説に沿って参加者が出土品とテキストを見比べる内容で進めました。当日はまいぶん友の会々員を中心に約30人が参加しました。

第1回は「入門 中国から輸入された焼物」と題して、平安時代～戦国時代に中国から輸入された青

磁<sup>じ</sup>や白磁<sup>はくじ</sup>の碗皿<sup>わんざら</sup>などを並べ、その移り変わりを説明しました。参加者からは「青磁碗の値段は?」、「安南青磁の特徴は?」など専門的な質問も出ました。第2回は「入門 唐津・伊万里の焼物」と題して、江戸時代に肥前から海路で運び込まれた陶器や磁器について解説しました。講座の最後には、江戸時代の町屋跡の発掘調査で出土した陶磁器を参加者が年代順に並べる体験もあり、「なかなか難しい」との声の中、皆熱心に取り組んでいました。



出土品の解説 (第1回)



会場の風景 (第2回)



江戸時代前期の肥前陶磁器 (第2回)

古代  
体験

## 古代の独楽づくり

平成27年1月4日(日)から18日(日)まで「古代の独楽づくり」を行いました。日本最古の独楽は、約1,300年前に造られた藤原宮の跡から出土したものです。

独楽の製作は、まず円柱形の材木の一端を削って尖らせます。次に鞭むちを作ります。手で握れる程度の角材を小刀で削り、紙やすりで磨いて棒状の柄にします。布を編み紐あひも状にして柄に取り付け、独楽を叩いて回すための鞭むちにします。自分で作った独楽と鞭を使い、参加者は古代の人たちも興じたであろう叩き独楽を楽しみました。



独楽と鞭



柄を作ります



鞭の布を編みます



独楽を回します

くだ たま  
管玉づくり

管玉は、縄文時代から見られる円筒形をした装身具で、孔ひもに紐を通して腕飾りや首飾りなどとして使っていました。弥生時代の墓や古墳から数多く出土しています。平成27年2月2日(月)から20日(金)まで、新規の体験メニューとして行いました。柔らかく削りやすい滑石かつせきを四角柱に加工したものを、まず両端から、鉄錐てつすゐと弓を用いて孔を開け、貫通させます。次に砥石を使って外側を円柱形にし、紙やすりや麻布で磨いて仕上げました。



管玉の材料



弓を前後に動かして錐を回転



割れないように気を付けて



完成した滑石製管玉

## 収藏品ギャラリー

当センターが保管している数多くの出土品の中から、選りすぐりの「収藏品」をご紹介します。今回は消費地遺跡での確認例が大変少ない、江戸時代前期の九谷焼です。

### 収藏品No.26 九谷焼 —小松市 大川遺跡—

遺跡は、北国街道と梯川に面した小松城下の北の玄関口に位置し、発掘調査で街道沿いに並ぶ十数軒の町屋敷跡を確認しました。江戸時代前期の九谷焼はその一画にある「町屋敷4」周辺に集中しており、同時に九州(肥前)産の陶磁器類も大量に出土していることなどから、各種の焼物を扱う商家の存在が推定されます。

今回確認された九谷焼は38点で、内訳は染付13点、色絵9点、白磁16点です。これまでに消費地遺跡で見つかる江戸時代前期の九谷焼は7遺跡19点と少なく、大川遺跡の特異性が見て取れます。また、今回は窯跡調査などでは出土していない文様や色使いも数多く認められ、今後の流過程の展開や消費地遺跡における新製品の発見など九谷焼研究の新たな局面につながるものとして期待されます。

- ◎染付 碗9点、皿1点、大皿3点が出土。大皿の「棕櫚文」、「花唐草文」、「魚文」などは初見資料です。
- ◎色絵 碗7点、大皿2点が出土。「菊文」、「鳶文」など、いずれも初見資料です。
- ◎白磁 碗3点、皿10点、大皿3点が出土。内面に焼成時の降物が見られます。



染付大皿(左:棕櫚文、右:花唐草文)



染付碗・皿・大皿(右上:魚文)



色絵碗・大皿(中上:菊文、右中:鳶文)



白磁碗・皿・大皿